

## 5.4 仕上材の選択

ウレタン塗膜防水工法では一般的に防水層の保護を目的として表層仕上げが行われる。使用目的、施工部位等により種々の仕上仕様があり、大別して「保護塗料仕上」、「舗装仕上」と「保護モルタル仕上」の3種類に分類される。この仕上層は防水層の耐候性向上、防滑性向上等の重要な役割を果たすものである。

仕上材は防水施工部位の使用目的によって選択する必要がある、以下に各種仕上材の特徴等をまとめてみた。

### 5.4.1 仕上材の種類および特徴

#### (1) 保護仕上塗料

保護仕上塗料にも各種の製品があり、目的により使い分ける必要がある。保護仕上塗料の主な役割は防水層の耐候性向上と汚れ防止効果であり、施工後3～5年毎に防水層の点検を兼ねて塗り替えると、防水層の性能をより長く保つことができる。

色むらを防ぐため、1成分系と2成分系の着色成分はあらかじめ均一に混合しておく必要がある。また、製造ロット間で色相に差がある場合もあり注意が必要である。

代表的な保護仕上塗料には次のようなものがある。

種 類	特 徴	主な留意点
アクリルウレタンエマルジョン系 保護仕上塗料 (水系2成分タイプ)	○硬化剤がエマルジョンであり、無溶剤のため密閉室内等の施工に適する。 ○NUK環境対応認定品が多い。	●溶剤系と比べ、混合条件や塗布条件に注意を要する。
アクリルウレタン系 保護仕上塗料 (溶剤系2成分タイプ)	○光沢タイプ、半艶タイプ、艶消しタイプ等がある。 ○粗面仕様では粗面仕上材を混合して使用する。 ○従来の強溶剤のほか、弱溶剤のタイプもある。	●着色材なしのクリアタイプは防水層の保護仕上塗料としては不適当である。 ●淡色の艶消し塗料は塗りむらが非常にやすいため避ける方が良い。
アクリルウレタン系 保護仕上塗料 (溶剤系1成分タイプ)	○空気中の湿気で硬化するタイプで、タックの少ない塗膜となる。 ○表面の硬さは硬いが伸びが少ない。 ○光沢タイプ、半艶タイプ等がある。 ○粗面仕様では粗面仕上材を混合して使用する。	●伸びが少ないためクラックが発生しやすく防水材には不向き。 ●表面に汚れがつきにくいウレタン床材に向く。
エマルジョン系 保護仕上塗料 (水系1成分タイプ)	○水系のエマルジョンで乾燥硬化するタイプであり、無溶剤のため密閉室内等の施工に適する。 ○塗膜の性能は溶剤系に比べ若干劣る。	●塗膜性能が幾分低く汚れやすい。 ●塗膜性能が幾分低いいため、ていねいな施工が必要である。

種 類	特 徴	主な留意点
エマルジョン系粗面 仕上材入り保護仕上塗料	○粗面仕上材入り水系塗料で耐候性向上のほか防滑効果もある。	●一回に厚塗りを行うと塗膜に割れが できやすい。数回塗り重ねを行う。
エマルジョン系防火 保護仕上塗料	○エマルジョン系塗料で、火事の場合 の近隣からの飛び火などによる類焼 防止効果がある。	●一回に厚塗りを行うと塗膜に割れが できやすい。数回塗り重ねを行う。
遮熱保護仕上塗料	○太陽光の赤外線を反射し屋根の温度 の上昇を軽減させる。	●塗膜面が汚れると効果が薄れるため 塗り替えは早めに行うとよい。
高耐久性保護仕上塗料	○フッ素系、シリコン系、HALSハイ ブリッド系等がある。 ○耐候性がとくに良いため再塗装間 隔を長くできる。	●再塗装性について、他の塗料と比べ て新旧塗料間の接着性を確認する必 要がある。

## (2) 舗装材

防水層の上を運動床、テニスコート等に使用する場合に、防水層の保護と運動に対する適性、クッション性、スリップ性を改良するため、舗装材を施工する。

運動床には運動や歩行に対する適性、ならびに耐久性の点でウレタン弾性舗装材が最適で、硬度はゴム硬度A45～70のものがある。また、プールサイド床等にはスリップ性を改良する工法が必要である。

### イ) ウレタン弾性舗装材

ゴム硬度A40～75のウレタン舗装材があり、運動性、クッション性に優れている。特にテニスコート、運動床に適する。

### ロ) ウレタン床材

ゴム硬度A75～95のウレタン床材があり、表面強度を必要とする場合に使用できる。耐摩耗性、耐引っ掻き傷性に優れている。

## (3) 保護モルタル仕上

一般にウレタン防水は、露出防水を原則としているが、防水層を傷つける可能性がある場合に、防水層保護材としてモルタルを使用することがある。また、浴室防水のようなタイル張り仕上げでは、モルタルで仕上げからタイルを張る方法を取る。この場合、立上り面はトンボ(約30cmピッチ)等を使用してメタルラスモルタル仕上げを採用する。

セメントモルタルは、セメント1：砂3～4(容量比)のモルタルを平場で40mm以上、立上り面で5mm以上施工する。

なお、保護モルタル仕上げは防水と職種が違うため、一般に別途工事となる。

[主な留意点]…湿度が低い場合、塗り膜厚さが薄いとドライアウトしやすい。